

科目名	日本語学講義F		
教員名	小木曾 智信		
単位数	2	配当年次	2
		開講時期	2013年度 後期
テーマ・概要	<p>近年、コーパス言語学が注目を集めている。コーパスとはコンピュータに蓄えられた大規模な言語資料のことで、これを利用することにより従来では行うことのできなかった研究が可能になりつつある。日本語学や諸分野においても今後の発展が期待されている。</p> <p>この授業では、現在構築が進んでいる「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を中心に、コーパスの概要・コーパス構築に用いられている技術・コーパスの利用方法などについて講義する。後半では、実際にコーパスを使って各自の課題について調査する実習を行う。</p>		
到達目標	コーパスを利用して各自の課題について調査する方法を身につける。		
授業の計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 日本語コーパスの紹介(1)コーパスの概要</p> <p>第3回 日本語コーパスの紹介(2)コーパスの設計とサンプリング</p> <p>第4回 日本語コーパスの紹介(3)コーパスのデータ形式</p> <p>第5回 形態素解析の仕組みと使い方「UniDic」と「茶まめ」の利用</p> <p>第6回 形態素解析結果の表計算ソフトによる集計</p> <p>第7回 Web版コーパス検索ツールの利用(1)「中納言」の紹介</p> <p>第8回 Web版コーパス検索ツールの利用(2)「中納言」の利用</p> <p>第9回 検索結果の集計と分析(1) 表計算ソフト</p> <p>第10回 検索結果の集計と分析(2) ピボットテーブル</p> <p>第11回 検索結果の集計と分析(3) データの加工と集計</p> <p>第12回 データベースソフトによるデータの集計と分析</p> <p>第13回 レポートに向けた調査(1)</p> <p>第14回 レポートに向けた調査(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業の方法	<p>コンピュータに教材を提示しながら講義するとともに、各自がパソコンを操作する実習を行う。</p> <p>ただし、受講者の人数によっては方法を変更する場合がある。</p>		
準備学習等の内容	<p>授業のWebページを見て授業内容の確認を行う。</p> <p>普段利用するパソコンを用いて授業内容の復習を行う。</p>		
成績評価の方法	出席・期末テスト・小レポート等を総合して評価する。		
成績評価の基準	成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目	特になし。		
テキスト	特定の教科書は使用しない。Webページの形で提示するほか、必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		